

名鉄名古屋本線新清洲駅付近鉄道高架化事業について

名鉄名古屋本線は、清須市および稲沢市を南北に走る鉄道であり、当該地域の発展に重要な役割を果たしてきました。

一方で、国道302号や県道名古屋祖父江線などの幹線道路では、踏切による交通渋滞や事故が発生しているとともに、市街地が分断されて一体的な発展の妨げとなっています。また、五条川の名鉄との交差部は川幅が狭く治水の観点からも改良が望まれています。

こうした状況を解消して、都市交通の円滑化、踏切事故の解消、治水安全度の向上、および地域分断のない良好な市街地の形成を図るため、鉄道高架化事業を進めます。

事業前



県道名古屋祖父江線((都)給父清須線)現況写真

東から西を望む

鉄道高架化による事業効果

1. 踏切による渋滞が解消され、交通安全性が向上します。

国道302号、県道給父清須線、県道名古屋祖父江線をはじめとした幹線道路では、踏切(鉄道との平面交差)による交通渋滞が発生していました。鉄道高架化により踏切が除却されることで、交通渋滞が解消されます。また、踏切が除却されて踏切事故がなくなるため、交通安全性が向上します。

2. 五条川の治水安全性が向上します。

一級河川五条川の名鉄名古屋本線の鉄道橋が架かる箇所の通水断面は、計画断面の半分程度と狭く、浸水被害が発生させるおそれがあります。鉄道橋の改築により川幅を拡げ、河道を掘削することで洪水時の水位を低下させ、治水安全度の向上を図ります。

3. 地域分断がなくなり、魅力ある快適なまちづくりに貢献します。

新たに4箇所の交差道路が整備され、鉄道によって分断された市街地の一体的な発展に寄与します。また、駅舎のバリアフリー化や関連事業による駅前広場の整備により、新清洲駅周辺の環境改善を図ります。

事業後



東から西を望む

県道名古屋祖父江線((都)給父清須線)完成予想図

鉄 道 計 画

事業延長	L=約3.2km(高架延長約2.8km)
立体交差	都市計画道路 4路線 ・名古屋第二環状自動車道((都)高速名古屋環状2号線) ・国道302号((都)名古屋環状2号線) ・県道名古屋祖父江線((都)給父清須線) ・県道給父清須線((都)西清洲上条線) その他道路 13路線 一級河川 五条川 (都)は都市計画道路の略
踏切除却数	8箇所(内、ボトルネック踏切:3箇所(新清洲1、7、9号踏切))
事業主体	国土交通省、愛知県
事業手法	限度額立体交差事業
施工方法	北東側仮線方式

道 路 計 画

道路事業	国道302号((都)名古屋環状2号線) 道路区分:第4種1級 計画幅員:60m、4車線 事業主体:国土交通省
	県道名古屋祖父江線((都)給父清須線) 道路区分:第4種1級 計画幅員:16m、2車線 事業主体:愛知県
	県道給父清須線((都)西清洲上条線) 道路区分:第4種2級 計画幅員:12m、2車線 事業主体:愛知県

河 川 計 画

河川事業	一級河川 五条川 改修工事 計画高水流量:380m ³ /s(1/30) 事業主体:愛知県
------	---

主 な 関 連 事 業

土地区画 整理事業	新清洲駅北土地区画整理事業 面積:約5.24ha 施行者:清須市
道路事業	(都)井之口線 道路区分:第4種2級 計画幅員:12m、2車線 事業主体:稲沢市 下本町丸之内線 道路区分:第4種3級 計画幅員:6~12m、1~2車線 事業主体:清須市
街路事業	(都)西市場廻間線 道路区分:第4種4級 計画幅員: 8.5m、1車線 事業主体:清須市 (都)廻間花水木線 道路区分:第4種3級 計画幅員:10.5m、2車線 事業主体:清須市